

# 天皇皇后両陛下

## 歌津を ご 訪 問

四月二十七日午後一時過ぎ、ヘリコプターにて伊里前小学校校庭に降り立たれました。

両陛下は海と伊里前市街地が見えるところまでお進みになられ、知事や佐藤町長の説明を聞いた後海に向かって丁寧に一礼なされました。

伊里前小学校からはマイクパスでご移動になられ、車窓から笑顔で手を振られ、中学校体育館の遊覧所ではお一人おひとり



笑顔で手を振られる天皇皇后両陛下 (写真住民提供)

に暖かいお声をかけられ励まされました。「生きていてくれてありがとう」と優しくお声を掛けられました。

伊里前小学校から飛び立たれる前にも、また太平洋に向かって一礼なされました。お帰りになりました。

両陛下のご訪問は、被災者に大きな勇気と希望を与えたことと思います。実は天皇陛下と歌津はご縁があり、昭和三十一年、昭和天皇の即位の大札

が京都御所において執り行なわれたとき、国家的慶事にあたり、歌津村の名産鮫が「大管祭机代鮫」として献上されたのです。また歌津の海が蘇った時、両陛下に献上できる日が来ることを願うのみであります。

五月十六日から仮設住宅入居開始予定 (吉野沢団地)

いよいよ仮設住宅入居が始まる。吉野沢団地に建設された81戸に抽選で決定された被災者が入居する。五月五日入居予定者対象の説明会が開催された。

仮設住宅には日本赤十字社よりテレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン等六ヶセットが支給される。一方、仕事の都合や家族の都合で自分の土地や借地にプレハブ等を設置した場合は、これらの備品等の支給はない。同じ日赤会員として不公平との声がある。

第二回の仮設住宅は平成の森に建設された246戸の入居者が五月七日抽選により決定され、五月二十一日説明会が予定となっている。以後、伊里前小学校25戸、歌津中学校35戸がまもなく完成し抽選後入居可能となる。

これで公共用地への建設は終了し、絶対数が足りない南三陸町では民有地への建設が始まるそうである。



歌津中学校仮設住宅

### 仮設住宅入居は集落ごとに入居を

五月四日午前九時より南三陸町災害対策本部を訪問し、遠藤副町長、佐藤総務課長、西城建設課長、小野副会長、熊谷監事、小野常任委員、平形港契約会会長が同席し次のように要望した。

現在の入居者決定の方法は個人ごと、歌津地区が志津川地区かの希望により抽選を行なっているが、阪神淡路の反省から(孤独死を予防するため)復興に

つながる集落ごとに入居できるように抽選の方法を変えて欲しい旨を要望した。回答は次のようであった。

絶対数が足りない(特に志津川地区)。南三陸町においては現在の方法しかない。地域コミュニティは仮設住宅に入居した方々

で新しいコミュニティをつくって欲しい。そのためにも集落ごと建設するとの回答であった。

更に今後は、港地区をはじめとする民有地へ建設することだが、その際も今ままでお引き抽選で行うとの回答であった。今後民有地に建設する仮設住宅も今ままでお引きの方法で入居決定すると地元の方々が集団で入居できない

方々がある。現に決定している吉野沢団地や平成の森に当てもキャンセルし、更に抽選に参加するしかない。しかも地元

に当る補償はないことになる。これでは何のために用地交渉をしたり、地域のコミュニティを守るために努力してきたか分からない。仙台市では個人申込みはなしで十人以上の隣組での申込みを受け付けているそうである。

折角地元のため、仲間のためと思って用地所有者は快く承諾したはずである。その期待を裏切ることになり、復興のトラブルになったり、後々につながらなくなる恐れもある。

なせ南三陸町全体で絶対数が足りないのなら、始めから歌津地区の民有地もカウントした全体数量を把握し、地元優先で入居できる方法をとれないのか。地元なら少し位遅くとも集落の人々は待つてく

れるはずである。そうすれば平成の森等に余裕ができ、その分を志津川地区の方々に提供することができるとはならないだろうか。

私たちは歌津地区だけの地域エゴで主張しているのではない。三陸地方は始めから平地が少ないことは分かっていたことではないのか。

当地方の特殊性を説明して、制度そのものを見直してもらおうよう働きかけ

るのは町の仕事ではないのか。更に復興に一日も早くつなげるためには恒久住宅となる予定地附近にいないと相談にもならないのである。

### さわやか福祉財団 堀田理事長来訪

五月二日午後一時、さわやか福祉財団理事長堀田力氏ほか五名が来訪されました。理事長さんより丁寧なお見舞いの言葉と多額の義援金を頂戴いたしました。更に、復興に向けての貴重なご提言書をいただきました。共生型の地域づくりのため「地域復興住民協議会」を地域ごとにつくり、自助と互助の力を引き出し、「町民がもつとも暮らしやすい町や地域を新しく創造する」という理想を一挙に実現してほしい。そのチャンスである。

なお、復興提言についての詳しい内容についてはNHKのニュースウォッチ9で堀田理事長さんが出演され説明されておりました。

歌津を訪問し懇談している様子も放映されました。



武蔵野の子どもたちからメッセージ入りこいのぼりのプレゼント

### 伊里前・名足 両小学校卒業式終了

東日本大震災のため延期していた伊里前・名足両小学校の卒業式が四月二十八日午前十時より伊里前小、十一時より名足小と被災した名足小学校も時間をずらして伊里前小学校の多目的室で挙行された。

私も伊里前小学校の卒業式に参列させていただいた。残念なことに保護者二名が津波の犠牲になられたとの報告があり、式に先立ち黙祷を行った。

もう既に新任地に赴任された宍戸校長先生が式

辞を述べられ、四月一日赴任の兵藤校長先生が来賓という大震災ならではの光景であった。また、中学校から転校する生徒は既に新しい中学校で入学式が先になるという、これもまた被災ならではの光景である。卒業生一人ひとりが明日に向っての決意が力強く述べられ、中でも男子生徒の多くは地震津波の体験を話していた。卒業式だが、被災した子どもたちはジーンズにTシャツ。しかし質素ながらも心のこもった感動的な卒業式であった。

### 【歌津中学校入学式】

五月十一日午後一時より伊里前小学校体育館において平成二十三年度の歌津中学校の入学式が挙行された。

入学生徒数は名足小学校から19名、伊里前小学校から19名合計38名。小学校の卒業生数は両校共に23名合計46名だった。

残念ながら8名の転校生がいたことになる。どんな思いでふるさとを離れて行ったことだろう。生徒諸君は新しい学校でも素晴らしい出会いがあり、一回り大きくなってまたふるさと歌津に帰る日を待っているよ。

## 世界・日本の ボランティアの皆さんに感謝

今回の大震災を体験し、一瞬にしてガレキの山と化したふるさとと歌津、二度と立ち上がれないと思うほどのどん底。そんな中で励まされ、勇気付けてくれたのは世界の国々から、そして全国各地から駆けつけてくれた各方面のボランティアさんたちである。

医療や福祉、救援物資、IT、仮設風呂、ガレキの撤去や片付け等々、数え上げれば切がない。そんな中先日、九州から駆け付けてくれた炊き出しボランティアの牛肉をご馳走になった。九州宮崎からお出でになったチームは、昨年口蹄疫で全国の皆さんにお世話になったと牛肉一トンをトラックに積み込み、歌津避難所で焼肉サービスを行ってくれた。



宮崎から焼肉の炊き出し

## お花見会 盛會裡に終る

第二号でお知らせした「歌津地区お花見会」が五月一日(日)晴天にめぐまれ盛會裡に終了した。



歌津中学校の先生方やボランティアの方々を中心に、暗いムードの漂う被災者に少しでも明るい楽しい時間を過ごしてほしいとパーベキューや豪華景品が当たるビンゴゲームなど、多数の参加者で賑った。スタッフの皆さんご苦労様でした。

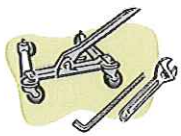


ご支援に感謝ののぼり旗 (上沢地区)

## 『自立へ』

被災から三日目に商売を始めた店がある。始めたというよりお客さんのニーズに答えるために動き出したと言った方がよいのかもしれない。

その店は佐信輪業店店主佐藤信行さんだ。伊里前商店街で被災し、母の実家がある上沢に一家五人で



上沢地区にある仮設店舗



避難生活を送っていた。近所の人が「発電機を修理して」と小さな発電機を持ってきた。おりしも停電中。その後一ヶ月以上も停電が続いた。電気のない生活に皆苦労していた。それから発電機の修理が続く。次に自転車やバイクにと、いつしか母の実家の倉庫が店に生まれ変わっていった。さわやかな福祉財団からのご支援で道具も少しずつであるが揃って来た。やがて海の方の状況が変わってくると船外機の修理等もでてくるだろうと言う。また、新しい伊里前で商売できる日を夢見て、仮設店舗で修理に励んでいる。

お金でなく、お客が必要な商品や技術を提供するという商売の原点を見た思いである。

## 涙の合同葬

震災から四十九日目にあたる四月二十八日午前十時より伊里前小学校体育館において、津龍院・西光寺合同による僧侶徒葬があふれんばかりの多くの参列のもと執り行なわれました。

震災で死亡が確認された方々六十一名の合同葬が津龍院住職館寺昌晴様、西光寺住職小沢良孝様、津龍院副住職館寺俊明様、桑港寺住職館寺規弘様によりしめやかに行われた。遺族、参列者の涙を誘う合同葬であった。いつまでもいつまでもお焼香の列が続いた。



二カ月が過ぎたというのに、今だ多くの行方不明者が家族のもとに帰っていない。私の友人、知人、そしてかつての同僚の多くもまだ見つかっていない。ご家族の心痛を思うとき胸が痛む。



## 無料シャトルバス運行開始

5月9日から無料シャトルバスが運行開始になりました。歌津地区内でもマイクロバスとワゴン車を活用して運行しています。当分は安全優先のため、コースや時間を変更しながらの運行になります。詳しいことは5月2日配布のチラシをご覧ください。



## 小野寺歯科医院再開

小野寺歯科医院は、4月下旬より平成の森駐車場(外トイレ脇)にてバスによる仮診療所で診療を再開しました。時間：午前10時～午後3時まで ※虫歯の治療、入れ歯作れます



## 「議員との懇談会開催について」

本会会員と歌津地区から選出されている議会議員さん方と復旧、復興についての懇談会を開催いたします。日時：5月17日(火)午前10時～正午 場所：歌津中学校多目的室

## 参った 参った

震災から十日経った日だったのだろうか。泊浜という集落の知人を訪ねた。海岸から100m程離れた所に高々とブロックを積み上げ自宅を構えた家がある。70代の働き者のお母さんがしみじみこう言っていた。「毎日毎日この坂を上ったり下ったり...もう少し下の方に家を建ててくれれば足も腰も痛くならないのに。しかし、不便だと思つていた坂が命を救つてくれた」と話してくれた。ちょっとした不便さが命と財産を守った。

被災から二ヶ月になるのに、停電と断水が続いている。便利さを追求した住宅ほど惨めである。あんなに便利と思つていたのに、体育館のトイレを水洗化する時、議論をしたことを思い出した。地震津波に備えて、避難所は汲み取り式でよいとの主張をした。しかし、係は今水洗化しない後ではできないと反対。多勢に無勢。私の主張は取り入れられなかった。

今避難所となっている体育館の外には多くの仮設トイレが並んでいる。それを見るたびもう少し頑張れば良かったと思う日々である。